

映像記録・日本民衆史学

大阪・泉南地区におけるアスベスト被害と石綿村百年史Ⅲ

研究年度・期間：平成 23 年度

研究ディレクター：原 一男
(映像学科 教授)

共同研究者：大森 一樹
(映像学科 教授)

太田 米男
(映像学科 教授)

豊原 正智
(芸術計画学科 教授)

犬伏 雅一
(芸術計画学科 教授)

中川 滋弘
(映像学科 教授)

学外共同研究者：森 裕之
(立命館大学
政策科学部 教授)
小林佐智子
(映像学科 非常勤講師)

村松 昭夫
(京都大学法学部・客員教授
大阪弁護士会・弁護士)

柚岡 一禎

友長 勇介
(フリー 写真家)

澤田慎一郎
(全日本建設交通一般労働組合
関西支部 労災職業病担当)

『大阪泉南地域に置けるアスベスト被害と石綿村百年史』のⅠに続く2回目の発表を平成24年1月25日に学内で行った。基調報告「泉南地区石綿村に生きる民衆像」(原一男)、解説「大阪泉南アスベスト国賠訴訟大阪高裁判決の問うもの」(学外共同研究者・澤田慎一郎)のあと、記録映像『映像記録・日本民衆史学 岡田陽子篇 ～不当判決なんかに負けるものか!～』(監修・原一男、構成・学外共同研究者・小林佐智子)を上映。終了後、現地から参加してくれた岡田陽子さんをはじめとする原告のみなさんのお話をうかがい、弁護団、支援者、マスコミ報道関係者、そして本校映像学科、初等教育学科の学生達多数によるデスカッションが行われた。パネル写真展「泉南地区 石綿村の人々 V. 2」(学外共同研究者・友長勇介)、絵手紙展「泉南アスベスト裁判傍聴記」(絵手紙作家・中村千恵子)も同時開催。

発表から間もない2月4日、常に娘・陽子さんと二人三脚で寄り添っていた母、岡田春美さん(石綿肺じん肺管理区分4)、そのわずか数日後、昨年の研究発表『西村東子篇』上映に来校し学生達とも親交を深めた西村東子さん(石綿肺じん肺管理区分4)、二人の訃報が相次いだ。

2007年に調査を始め、2008年7月に映像記録の撮影をスタート、2009年度から研究費助成を受けながら続けてきたプロジェクトであるが、2011年度で芸術研究としては一つの総まとめをすることとなった。

しかし、泉南の人々をめぐる状況はますます混迷を深めるばかりである。無為無策の国に一矢報いるまでは、このプロジェクトを終える事は出来ない。

映像資料

『映像記録・日本民衆史学

大阪泉南地域におけるアスベスト被害と石綿村百年史Ⅱ

岡田陽子篇 ― 不当判決なんかに負けるものか! ―』

岡田陽子さん 元看護師。父米山一夫、母岡田春美の長女。

1956年（昭和31年）両親が共に働く濱野石綿工業所の社宅で生まれる。母は幼い陽子を工場に連れて行って仕事に励んだ。

生後8ヶ月から5歳頃まで、石綿の粉塵の中、働く母の傍らで育った。

憧れの看護師になったが、20代後半から石綿肺を発症、退職を余儀なくされる。

父は石綿肺、肺ガンで死亡。母も石綿肺でじん肺管理区分4。

勝訴した地裁判決においても、陽子さんは石綿の非労働者として除外された。



①タイトル



②岡田陽子さん、母・春美さんインタビュー



③青木善四郎さんの在宅尋問の日（2008/10/7）
支援に向う母娘



④青木善四郎さんを励ます仲間達



⑤アスベスト国賠訴訟大阪地裁結審日（2009/11/11）



⑥陽子さんインタビュー（2009/11/26）
まだ学生の息子への思いを語る



⑦東京・30万人署名要請行動（2010/4/6）



⑧判決前日（2010/5/18） 母娘のひとつき



⑨地裁判決日（2010/5/19） 入廷行動



⑩夫・青木善四郎さんの遺影を胸に、判決を待つ



⑪勝訴判決記者会見・原告共同代表として



⑫早期解決を求める東京行動・厚労省前



⑬国の控訴に抗議の記者会見



⑭控訴審で泉南新家の現地検証が初めて実現する



⑮大阪高裁三浦潤裁判長



⑯高裁控訴審判決日（2011/8/25） 逆転敗訴



⑰東京厚労省前・不当判決に抗議



⑱入院中の母と（2011/11/11）



⑱西村東子さんを見舞う（2012/1/10）